

みんなの「なんなの?」を伝えるこども記者のための新聞

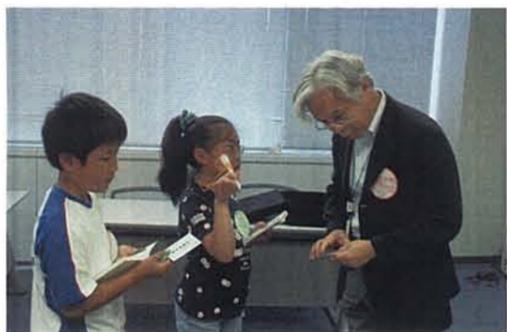
信毎こども記者ニュース

発行/信濃毎日新聞地域活動部 〒380-8546 長野市南県町657 TEL.026-236-3110 FAX.026-236-3193

no.2

科学スクールの体験取材

信毎こども
スクール



永山先生に質問するこども記者

今回のこどもスクールの講師は、電子顕微鏡の研究をしている永山国昭先生(愛知県の岡崎総合ハイオサイエンスセンター教授)と、取材教室の時にインタビューを受けてくれた理科の「りんごろう先生」と、松本徳重先生(小川村の小川小学校講師)です。

最初に講師2人のお話が終わると、早速こども記者たちが質問しました。「レンズ1個で150倍に見えるそうですが、レンズの数を増やすともっとよく見えますか」「一番良く見える顕微鏡の倍率はどれくらいですか」「鋭い質問を堂々とするこども

記事は書くには
まず自分で体験

岡谷市で7月4日に開いた第4回信毎こどもスクール「見て、聞いて、感じる科学」を、こども記者10人が取材しました。10人は、5月に塩尻市で開いたこども取材教室で、インタビューの仕方や原稿の書き方を教わった小学生たちです。うまく取材できたでしょうか? 活動の様子を報告します。



先生といっしょに記念撮影

記者に、大人たちから「ほー」と感心する声が出ていました。お話の後の体験教室では、こども記者に付き添った信毎のスタッフから「自分でもやってみな」と、記事は書けないよとアドバイスも受けて、実験にも楽しく挑戦しました。こども記者たちは、スクールが終わった後も、先生たちに追加の質問をして、熱心にメモを取っていました。



こども記者も実際に顕微鏡を体験



ありがとなーの

7月5日はなーのちゃんの誕生日
バースデープレゼントをもらいました!

こども記者の奥山もえきさん、ときはさん、ひろさん姉妹が、折り紙で作ったきれいな花束や、なーのちゃんのイラスト入りの手作りカードをなーのちゃんにプレゼントしてくれました。溝口紗彩さんもメッセージカードとして、自分のこども記者名刺を渡してくれました。プレゼントを受け取ったなーのちゃんは大はしゃぎ。とっても喜んでいましたよ。

取材を終えて こども記者に聞きました

井口横さん(6年生) / 取材はメモをとるのが大変だったけれど、自分なりにいい記事が書けたと思います。すごいと思っていた岡谷工業高校の今井部長さんたちに話を聞けてうれしかったです。ぼくもいつか、もっと速いマイコンカーをつくってみたいです。



信毎こども新聞
◎こども記者の記事は7月12、19、26日の「信毎こども新聞」のページと、NIE(教育に新聞を)という取り組みを紹介する30日の特集紙面にのります。

インタビューの心がまえ その1/3

- ① 相手への感謝の気持ちを持つ
貴重な時間をさいてくれる相手に対して、感謝の気持ちをいつも持つ。そんな気持ちがあれば、失礼のない態度が自然とできる。
- ② 相手の話をじっくり聞く
いろいろな人に出会ったり、知らないことを教えてもらえる貴重な機会なので、話をじっくり聞く。
- ③ 正確な情報を集める
正しくて、内容が豊かな情報をできるだけたくさん集める。特に「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「なぜ」「どのように」の6点に注意して聞く。
- ④ メモを取る
相手の話してくれたことは、しっかりとメモを取る。頭の中で覚えていただけでは、忘れてしまう。

記者の
極意
その2

記者として、大切なことを覚えておきましょう。

みんな最初は
一年生

ここだけのヒミツ!
ベテラン記者の失敗談

大事なのは好奇心!

井上裕子記者

いつか。知りたいことがいっぱいあります。知りたいことがいっぱいあると聞いたら、気が付いたことをどんどん聞いて、その中から「これがニースだ」ということをまとめるのです。

私が記者1年生だったある日、清掃工場の取材に行きました。「みみ」スプレー缶が交じって収集車に爆発事故が起る話を聞いてきたのです。帰って記事を書くとき先輩には「何がニースなんだ!」と書き直しを何度も命じられて、結局記事にはなりませんでしたが、こんなことが起るって言うって「小さいころから国語が得意だから国語が得意だから」と言われてきました。記事にはなっても、おもしろい記事にはなりません。事故が起る背景や対策などいろいろと聞いて、その中からニースになることを拾い上げてはいいのです。

「10聞いて、1を書け」と新人記者は言われます。記者は記事にならないこともいっぱい聞いて、勉強していくのです。

どうやって文章が上手になるかって? それは怒られながら、毎日書いているからです(笑)